

序

文部省大学学術局長

緒 方 信 一

国際地球観測年計画の一環として行われるわが国の南極地域観測事業において、南極地域観測隊、南極観測船宗谷および随伴船海鷹丸から成るわが第一次観測陣は、昭和 31 年(1956 年)から 32 年(1957 年)にかけて、次の観測を行つた。

1. 東京・リュツオホルム湾間(往復)の宗谷船上における観測(気象, 電離層, 極光・夜光, 宇宙線, 海洋)
2. リュツオホルム湾およびその附近における観測(気象, 電離層, 極光・夜光, 宇宙線, 地磁気, 海洋, 地質, 地理, 地形測量, 地震)
3. 海鷹丸による海洋, 気象, その他
4. 第一次越冬隊による昭和基地およびリュツオホルム湾, プリンズ・ハラルド海岸, プリンズ・オラフ海岸方面における観測(気象, 宇宙線, 極光・夜光, 地質, 氷河等)

引き続き昭和 32 年(1957 年)から 33 年(1958 年)にわたつては、南極地域観測隊および南極観測船宗谷から成る第二次観測陣により、次の観測が行われる予定である。

1. 東京・リュツオホルム湾間(往復)の宗谷船上における観測(気象, 極光・夜光, 地磁気, 海洋, 宇宙線〔帰路のみ〕)
2. 寄港地シンガポールおよびケープタウンの陸上における重力観測
3. リュツオホルム湾およびその附近における観測(気象, 海洋, 地形測量, 重力)
4. 第二次越冬隊による昭和基地およびその附近における観測(気象, 極光・夜光, 地磁気, 宇宙線, 電離層, 地震, 地理)

このように、わが観測陣による観測は、国際地球観測年において計画された南極地域の観測項目全般にわたるものであり、その実施にあつては準備の段階より関係者の絶大な努力を必要とした。すなわち、人員、観測、設営、海上輸送等のすべての面にわたつて未経験による苦勞と困難が非常に多かつたのである。

しかしながら、関係機関の緊密なる協力と観測隊員、宗谷・海鷹丸の乗組員各位の懸命な努力により、よく困難を克服し、第一次観測においては、予期以上の成果をあげ得たのであり、ただいま南極大陸へ向けて行動中の観測隊も必ずや優秀な成果をおさめられることと信じている。

こうして得られた各種の資料は、国際地球観測年の資料としてはもちろんのこと、この事業の内容に関係するすべての方面に対し、きわめて貴重なものであり、これらの関係資料を収集、

分析、整理し、これを関係者の利用に供し得るよう刊行することは、南極地域観測隊に関する業務を所管する文部省として、重要な責務となつた。この「南極資料」はまさにその目的のために刊行するものであつて、第一次観測隊の資料のみならず、白瀬隊その他諸外国の観測隊によつて得られた資料をもできるだけとりまとめてつけ加えるとともに、今後第二次観測陣によつて得られる資料をも逐次加え、いわば、南極地域観測に関する資料を集大成するものにいたしたい。この「南極資料」がひろく内外の関係者の方々に利用され、學術の進歩に寄与せられるよう望んでやまない。

この資料の刊行に当つては、日本學術會議南極特別委員会の格別な御協力、御支援を賜わり、資料の編集は同委員会の御推薦による別記各位の方々の御尽力に負うものであつて、同委員会並びに編集委員に対し、深甚なる謝意を表するものである。また貴重な資料の提供につき御協力いただく海上保安庁、東京水産大学の当局者の御厚意に対しても、厚く御礼を申し上げたい。

昭和 32 年 12 月